

令和7年度 学校評価 保護者「学校教育評価アンケート」結果について

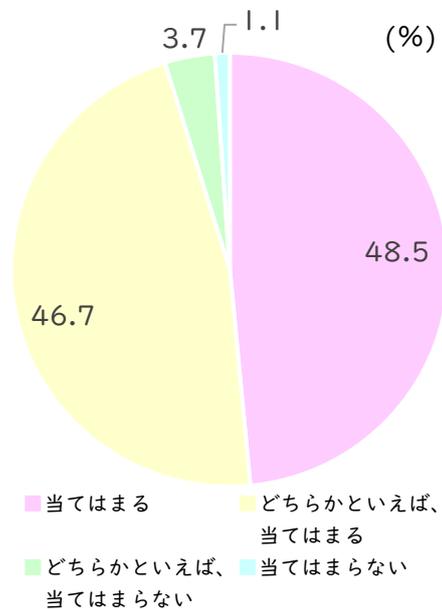
- 目的 本アンケートは、保護者の方々の意見を聞き、桜ヶ丘小学校を「魅力あるよりよい学校」にしていくことを目的としています。
- 対象 桜ヶ丘小学校に在籍する児童の保護者
- 方法 Google フォームによる回答
- 期間 令和7年12月12日配信、12月19日を回答期限として実施
- 回答率 保護者 456/507名 89.9%

I【知】knowledge〈確かな学力〉深く考える子の育成に関して

(1)「主体的に学び、自分の思いや考えを適切に伝え合うことができる子どもの育成～言語活動を軸とした授業づくりを通して～」を主題とした校内研究授業に取り組む。

No.1 学校は、自分の考えを友だちに説明したり、友だちの考えを聞いたりして、学び合うことができるよう、授業づくりをしている。

○概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。本年度は公益財団法人日本教育公務員弘済会奈良支部様より学校教育研究活動助成をいただき、生駒市教育委員会教育指導課教育政策室主幹の若松俊介氏を講師として招聘するなどして校内研修を進めてきた。昨年度に第3次生駒市教育大綱が策定されたこともあり、個別最適な学びと協働的な学びの推進に向けた授業改善により一層取り組んでいきたい。

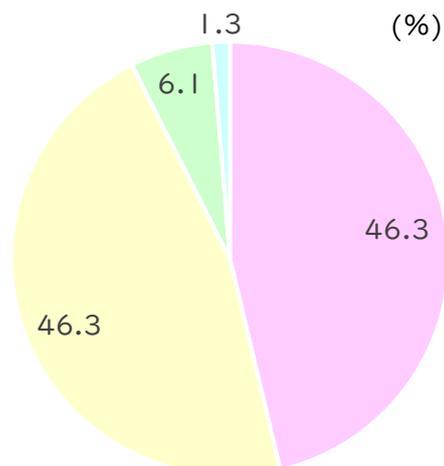


※凡例以下同様、以下省略

(2)個別最適な学びと協働的な学びの推進に向けて、オンラインで使えるグラフィックデザインツールのCanva等ICTの効果的な活用を図る。

No.2 学校は、タブレットなどのICT機器を活用することで、グループ学習等を取り入れた授業づくりに取り組んでいる。

○概ね達成していると回答する割合が高く、昨年度より3.1ポイント増す結果となった。本年度は主幹教諭による自主的な教員のICT研修を積極的に行い、そこで研修したことを活かすなどの取組を行った。ロイロノート・スクール等の授業支援クラウドと併せてCanvaといったグラフィックデザインツール等のICTを最大限活用して、これまでよりさらに個別最適な学びと協働的な学びを推進させていきたい。また、本年度より本市児童生徒のiPadの利用が始まり、情報モラルについてもさらに留意していきたい。

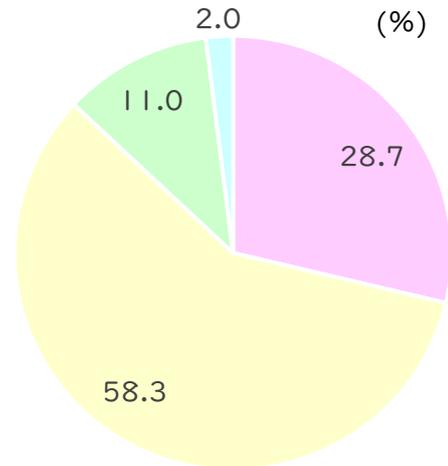


2【徳】moral〈豊かな心〉明るくやさしい子の育成に関して

(1) 道徳等で、命を大切にしようとする心情を育む指導に取り組む。

No.4 子どもたち（お子さん）は、学校の授業などで命の大切さについて学んでいる。

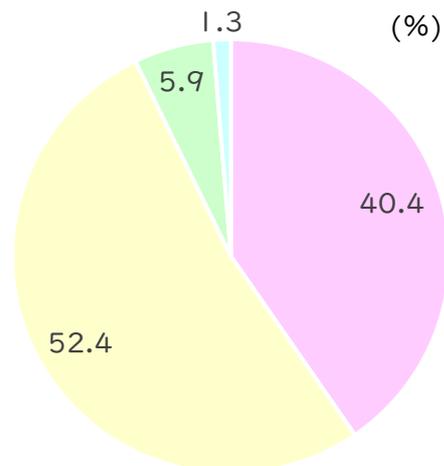
○概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。特別の教科道徳、国語、理科（生物分野）、生活科、保健体育、学級活動等の授業や食育等を通して、生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する心情や態度を育むことと併せて、存在を否定するような暴言や誹謗中傷への指導を徹底していきたい。



(2) 縦割り班活動で異学年交流を促進し、自尊感情や自己有用感を高める。

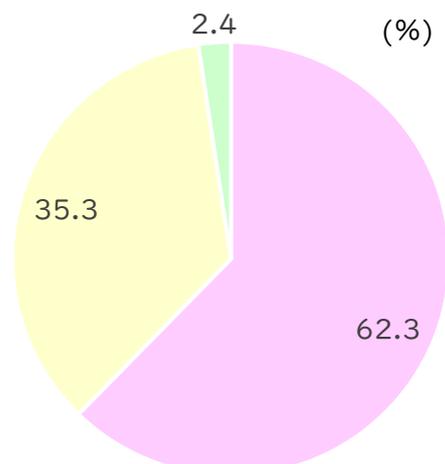
No.5 学校は、子どもの話を肯定的な雰囲気で行くなど自己肯定感を高めることができるよう取り組んでいる。

○概ね達成していると回答している割合が高い結果となった。児童は概ね達成していると回答している割合が保護者より 16.6 ポイント（昨年度は 19.8 ポイント）下回るものの 80%弱にまで増す結果となった。家庭と連携し、縦割り班活動と併せて、教科における指導はもとより、あらゆる教育活動を通じて子どものよさやたとえ失敗したとしても挑戦したことを認め、励ます取組をこれからも続けていくことが大切である。



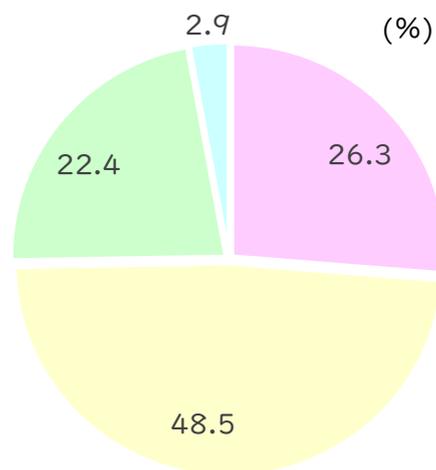
No.6 学校は、たてわり活動の遊び等を通して、子どもの社会性を育むことができるよう取り組んでいる。

○概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。これからもたてわり活動の遊びや行事を通して様々な異学年交流活動によって人間関係を広めたり深めたりする中で、どの子どもよさを生かし、認め合い自己有用感を高めていきたい。



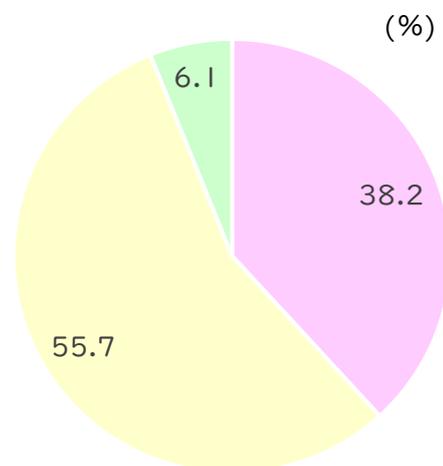
No.7 子どもたち（お子さん）は、家庭や地域で進んであいさつができています。

○概ね達成していると回答する割合が児童より 6.0 ポイント（昨年度は 1.1 ポイント）下回り 70%強にまでポイント減となる結果となった。あいさつをすると、相手から返礼されることで、自分が認められたと感じることができ、児童の自己肯定感を高めることにつながるが、校区内や隣接地域での不審事案等の発生により、このような結果になったものと推察される。児童が自分から挨拶をする習慣をつけることで、児童の積極性や主体性を育むことを目指したい。



No.8 子どもたち（お子さん）は、家庭や地域できまりや約束を守って生活を送っている。

○概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。きまりや約束などの規律は、個人や集団の中で自然に確立されていくものではなく、大人の意図的かつ計画的な躰や指導によって、児童に身に付いていくものであると考える。児童が守るべき規律は、大人が守るべき躰や指導の規律でもあるので、大人の共通理解や大人による共通実践をこれからも大切にしたい。

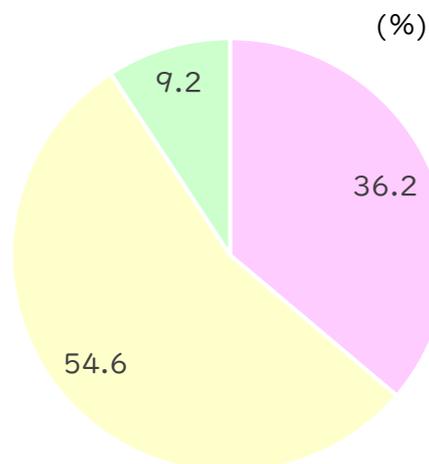


3 【体】 physical health 〈健やかな体〉心身ともにたくましい子の育成に関して

(1)体育科の授業等に握力や柔軟性を高めるストレッチを全校で積極的に導入し、併せてけがの予防にも努める。

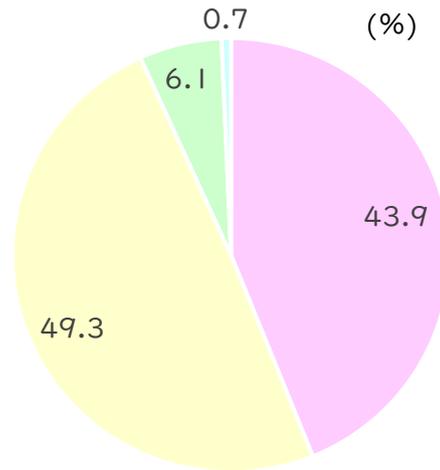
No.9 子どもたち（お子さん）は、安全に気をつけて登下校ができています。

○概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。地域ボランティアの方々による登下校時の見守り活動もあり子どもたちは安全に気をつけて登下校できているが、児童（94.2 ポイント、昨年度より 3.6 ポイント増）と保護者（90.8 ポイント、昨年度より 2.5 ポイント減）の結果に乖離が見受けられるので、これからも登下校時の安全指導に努めていきたい。



No.10 学校は、体育の授業や休み時間に外で体を動かすことを通して、体力向上を意識した教育をしている。

○概ね達成していると回答する割合が高い結果となったが、児童は概ね達成していると回答する割合が昨年度に続き 80%を下回る結果となった。設問の趣旨が異なるので、両者を比べることはできないが、児童が外で体を動かすことに関しては夏の暑さも影響しているのかもしれない。握力や柔軟性を高めることと併せて今後も児童の体力向上に努めていきたい。



4 地域とともにある学校等に関して

No.3 学校は、校内や子どもの様子を、お便り・ホームページ・X (旧 Twitter)・メール配信・懇談・通知表等で分かりやすく伝えている。

○概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。本年度は昨年度と比較してホームページやX (旧 Twitter) 等での発信ができていたとはいえ、この割合の高さは保護者の方々のさらなる期待の表れであると受け止め、これからも発信に努めていきたい。

